

- 交流を深めたり、幅広い視野を持って情報交換を行う目的から、平成27年に管内の複数のクラブが集まった東讃地区農業後継者クラブ連絡協議会(以下「東讃地区連」)を普及センター主導で設立。
- 東讃地区連の活動が新型コロナウイルスで制限される中、普及センターは、新規会員の確保につながる魅力ある取り組みと実践をコーディネート。
- 農業青年による次世代の育成活動として、農業高校との連携授業を実施。
- また、普及センターの提案により、東讃地区連の会員が若手農業者を訪問してアドバイスや情報交換することで、栽培技術の向上や仲間づくりにつながる等、早期経営安定の一助となっている。

具体的な成果

普及指導員の活動

1 組織の活性化に向けた機運醸成

- 会員と十分に議論する場を設け、活動の見直しや新たな活動の検討に向けた取り組みをコーディネートを行った結果、組織を活性化する機運が高まった。

2 高校生の就農意欲の醸成

- (1) 農業の魅力をPR
- 管内の農業高校と連携授業を実施し、農業青年によるプレゼンにより、生徒はより一層、農業の現実を理解し、今後の進路や就農への関心が高まった。
- (2) 他校への波及
- 管内の他の農業高校にも活動を紹介したことにより、令和3年度から新たな連携授業の開催につながった。



会員による高校生へのプレゼン

3 農業青年の経営発展とリーダー育成

- 会員の中には法人化したり、青年農業士として認定され、地域のリーダーとして活躍する者が増えた外、交流や研修の場として活用できた。



販路拡大の取組みについて事例発表

平成28年～

- 役員会を開催し、活動内容の提案や会員間の情報共有に努めた。

- 平成27年、関係機関が連携し、管内の農業高校生が、農業の理解を深めたり、進路の参考とするため、連携授業を開催し、現在も継続している。

- 会員が新規就農者に施設や作物を見学し、実践的な技術支援経営について、助言を行う場を設け栽培技術向上等、早期の経営安定を図ることに努めた。



新規就農者に対する現地見学の対応

令和2年

- コロナ禍でも実施ができる活動について会員と検討し、令和3年度から新たな取り組みを企画。

普及指導員だからできたこと

- 市町の垣根を越えて広域に活動する普及指導員のメリットを活かし、農業青年による地域を超えた新規就農者との交流や研修会を図ることができた。

- 関係機関と連携して活動する普及指導員のノウハウを生かし、学校連携授業等、次世代への育成支援に効果的な取り組みの支援ができた。

農村青少年クラブによる次世代の育成支援

活動期間：平成 28～令和 2 年度

1. 取組の背景

東讃地域の新規就農者は、近年、県外出身者や他産業からの就農などにより、増加傾向となっている。また、新規就農者を始めとする、農村における青少年は、自発的に地域活動に取り組むなど活動範囲も拡大している。各市町では、農業青年の資質向上や、地域農業の発展を目指す目的で、農村青少年クラブが設立されているが、その活動は、新規就農者などが、早期に地域に溶け込み、経営安定するうえで必要不可欠な存在となっている。

このような中、農業青少年同士のさらなる交流を深め、幅広い視野を持って情報交換などを行う目的から、平成 27 年 5 月に東讃管内の複数の農村青少年クラブが集まり、東讃地区農業後継者クラブ連絡協議会（以下「東讃地区連」）を設立した。

東讃地区連は、平成 27 年度から新規就農者や、関係団体との連携による交流推進や、東讃農業改良普及センターとの共催で、地元の農業高校との連携授業を開催するなどの活動を行ってきた。

しかし、令和元年度は、新型コロナウイルスの影響により、各種イベントが自粛されることになり、会員同士の情報交換会などの活動が制限されることとなった。

このような状況において、東讃地区連の活動をさらに継続させることや、新たな取組を行うなど、新規会員の確保につながる魅力ある取組を検討し、実践することが、今年度の重要な課題であると考えられた。

表 東讃地区連の概要

クラブ名	会員数(名)
かがわ若志の会	15
国分寺グリーンクラブ	10
FC下笠居	10
クラブ193R	4
新緑会	10
さぬき市後継者クラブ	22
計	71

2. 活動内容（詳細）

(1) 役員会の開催

令和 2 年 10 月に第 1 回役員会を開催し、コロナ禍の影響を受けた各種行事について再度検討するとともに、会員間の情報共有を行った。また、石田高校との連携授業について、役割分担や連携授業の発表者の選定などについて検討した。さらに、IFK（香川県農業青年クラブ）と連携して行う「親子農業体験」について、東讃地区連としての活動支援について協議するなど、今年度の事業が円滑に進められるよう、十分に議論を行った。

また、今年度の事業実績や次年度における事業内容の見直しなどの検討のため、令和 3 年 3 月に第 2 回役員会を開催した。

(2) 石田高校との連携授業

令和2年12月8日に、石田高校において、農業の理解を深めることや、今後の進路の参考にすることを目的に、東讃地区連と東讃農業改良普及センター、石田高校が共催して連携授業を行った。1年生の60名を対象に、農家の一日及び年間を通じた農作業の様子を、会員など10名がパワーポイントで紹介し、その後、作物別のグループに分かれて意見交換を行った。



地区連会員等によるプレゼン

(3) 農業青年による次世代への活動支援

会員各自が様々な機会を活用し、支援を行っている。農業大学校生には、農業の魅力や就農への意欲を高めてもらうため、講義を行った。また、先輩農業者として、新規就農者に施設や作物を見学してもらい、より実践的な技術経営についてアドバイスをしたり、会員自らの経営について事例発表などの場を設けるなど、情報交流を図った。



事例発表による新規就農者との交流



新規就農者に対する現地見学等の対応

(4) 親子農業体験の実施

I F Kと連携して小学生とその保護者が参加する「親子農業体験」を令和3年3月に東讃管内で開催し、参加者は東讃地区連会員の施設において栽培された花（キク）の収穫を行った後、フラワーアレンジメントを実施した。その後、東讃地区連の活動や農業の魅力を会員が伝え、自分達が栽培した野菜や米、畜産加工品を参加者に紹介するなどの食育活動を行った。



親子農業体験で農産物をPR

3. 具体的な成果（詳細）

(1) 組織の活性化に向けて機運醸成

コロナ禍の影響により、停滞気味となっている活動を見直し、新たな活動を検討することで、組織を活性化させる機運が高まった。

特に、東讃地区連の構成員が所属する高松市農業青年クラブでは、新たに新規就農者との交流会を開催し、クラブ員の加入促進を図るなど、各組織で活動が活発化している。

(2) 農業高校生の就農意欲の醸成と他校への波及

石田高校との連携授業により、農業青年などが農業の魅力や活動について紹介したことから、生徒はより一層、農業の現実を理解し、今後の進路や就農への関心を高めることができた。

また、管内で農業科を持つ高松南高校に対して、これらの活動を紹介したことにより来年度から連携授業を開催する方向で検討している。

(3) 農業青年の経営発展とリーダー育成

研修や情報交流などの活動を通じ、東讃地区連の会員の中には、さらなる経営発展を目指して法人化した者や、青年農業士として認定され、地域のリーダーとして活躍している者も増えてきた。

(4) 農業への理解とPR

I F Kとの連携を図り、親子農業体験を実施したことで、非農家に農業や農産物の魅力をアピールでき、農業や就農への理解につながったことから、今後の新たな活動の展開に結びついていると考えられる。

4. 農家等からの評価・コメント（東讃地区連会長・A氏）

我々が新規就農者のために、一緒に農業の未来について考えることや地域を盛り上げていくことは大事である。

そのために、東讃地区連による交流会で意見交換を行えたことはとても良かった。新規就農者の早期経営安定のためには、早く地域に溶け込むことが重要なので、普及センターには、今後も東讃地区連の活動支援をお願いする。

5. 普及指導員のコメント（東讃農業改良普及センター・副主幹・湊博之）

東讃地区連は、農業青年の資質向上や、地域農業の振興に大きな推進力となっている。

コロナウイルスの影響や担い手不足など、農業を取り巻く環境は大きく変化している一方、他産業から新規に就農を希望する者が増加する等明るい兆しも見える。

こうした中、東讃地区連は、今後も東讃地域を圏域とする広域性を活かして、会員相互の情報交換や資質向上、地域農業の振興を図るため、組織の活性化を図っていきたい。

6. 現状・今後の展開等

東讃地区連の会員は、より多くの農村青少年と交流し、「地域を元気にしたい」、「新規就農者が早期に地域に溶け込み、経営を安定させるために先輩農家として協力したい」という思いを持っている。

そのため、新規就農者の定着に貢献していくために、今後も会員同士の交流や、新規就農者の加入促進を継続することに加えて、新たな取組みを展開するなど、東讃地区連の活動の活性化を図る必要がある。